

お申込みはファクシミリで → 048-470-2702

●参加料金 (1名・税込み)

	1日のみ	両日
・日本プラントメンテナンス協会(JIPM) 会員(正会員・事業所会員) ・日本能率協会(JMA) 法人会員 ・協賛団体会員	32,400円	59,400円
・一般(上記以外)	43,200円	81,000円

※参加料にはテキスト代が含まれます。昼食の提供はありません

●会員以外の方は、この機会にぜひ小会への入会をご検討ください

■会員ご入会の有無につきましては、下記 HP にてご確認ください
 (公社)日本プラントメンテナンス協会 HP <http://www.jipm.or.jp/memberlist/>
 (一社)日本能率協会 HP <http://www.jma.or.jp/index.php>

●参加お申込み方法・参加料支払方法

- ・下記申込書に必要事項をご記入のうえ、ファクシミリにてお申込みください。電話のみでのお申込みは受付しておりません。
- ・開催直前にお申込みの場合、受付票をお送りできないことがありますので、お申込み時に電話で確認のうえ、ご来場ください。
- ・開催の2週間前より派遣窓口担当者様に受付票と請求書を送付いたします。請求書が届き次第、小会の銀行口座にお振り込みください。なお、振込手数料は貴社にてご負担ください。

●お申込みについての問い合わせ先

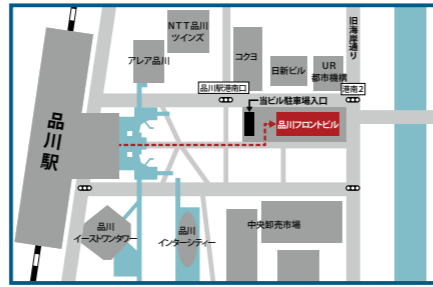
株式会社アイ・イーシー 通信教育・セミナー受付センター
 電話：048-470-3710 E-mail: seminar@iecj.com
 ※小会ではセミナーの申込手続きに関する業務を株式会社アイ・イーシーへ委託しております

●大会内容についての問い合わせ先

公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会 普及推進部
 電話：0120-451-466
 E-mail: fukyu@jipm.or.jp

太線の枠内をご記入ください。請求書と受付票を派遣窓口担当者様に送付いたします。

●会場：品川フロントビル (東京都港区港南2-3-1)



■交通のごあんない■

品川駅南口より 徒歩3分
 JR品川駅中央改札より 徒歩5分
 京急品川駅改札より 徒歩8分

●キャンセル規定

・ご参加予定の方が当日お越しになれない場合は代理の方がご参加ください。代理の方も参加できない場合は、下記の規定によりキャンセル料を申し受けますのであらかじめご了承ください(キャンセルは、ファクシミリでのみ申し受けます)

- ・開催当日および前日の参加取消し.....参加料全額 (参加料入金済の場合、返金いたしません)
- ・開催の2日前～7日前の参加取消し.....参加料の30% (参加料入金済の場合、70%を返金いたします)

*いずれも土日曜・祝祭日を含みません

●ご注意・お願い

- ・録音・録画に使用する機材の持込みをお断りします
- ・定員となり次第、受付は終了いたします

◆免責事項
 天災地変や伝染病の流行、研修会場・輸送等の機関のサービスの停止、官公庁の指示等の小会が管理できない事由により研修内容の一部変更および中止のために生じたお客様の損害については、小会ではその責任を負いかねます。
 ■個人情報の取扱いについて
 上記にご記入いただいた個人情報は、小会保有データとして管理させていただきます。また、後日に小会および当協会関連法人によりこれらの商品・サービス・講座等のご案内を送付させていただきます場合がございます。収集した個人情報は、小会のプライバシーポリシーに則った安全対策を施し、適切に管理いたします。なお、ご案内の送付中止、および個人情報の開示・訂正・削除の詳細につきましては、小会のホームページをご参照ください。
 ■個人情報に関するお問い合わせ先.....(公社)日本プラントメンテナンス協会 <http://www.jipm.or.jp/privacy.html>

参加申込書

MA1020 第57回 設備管理全国大会		開催日 2017年11月29日(水)～30日(木)	
ふりがな		ふりがな	
会社名		事業所名	
ふりがな 派遣窓口 ご担当者名		所属・役職	
所在地	〒		
	TEL () - FAX () -		
E-mail	@		
参加者	ふりがな	所属・役職	<input type="checkbox"/> 両日参加 <input type="checkbox"/> 29日に参加 <input type="checkbox"/> 30日に参加 <input type="checkbox"/> 両日参加 <input type="checkbox"/> 29日に参加 <input type="checkbox"/> 30日に参加
	氏名		
参加者	ふりがな	所属・役職	
	氏名		
参加料(税込)	<input type="checkbox"/> 日本プラントメンテナンス協会会員(正会員・事業所会員) <input type="checkbox"/> 日本能率協会法人会員 <input type="checkbox"/> 協賛団体会員(団体名:)	1日のみ参加	両日参加
	<input type="checkbox"/> 一般	32,400円 × ()名	59,400円 × ()名
	<input type="checkbox"/> 一般	43,200円 × ()名	81,000円 × ()名
合計 _____ 円		受付	登録
備考 (日本プラントメンテナンス協会への連絡事項)			発送

② ※郵便物の送付停止や宛先変更を希望される場合には、お手数をおかけいたしますが、上記問い合わせ先までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

第57回 設備管理全国大会

2次案内

～TPM技術カンファレンス～

開催日 2017年11月29日(水)・30日(木)
 ※両日とも10:00～16:35

会場 品川フロントビル会議室
 (東京都港区港南2-3-1 最寄り駅「品川駅」)

第四次産業革命の設備管理を考える

- ◆ 最新の情報技術 (IoT・ICT活用)
- ◆ 保全技術・マネジメント (設備診断技術、寿命延長、設備信頼性向上の取組み など)
- ◆ その他 (省エネ、人材育成、リスクマネジメント など)

主催 公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会 後援 経済産業省 厚生労働省

協賛 (一財)エンジニアリング協会 (公社)化学工学会 高圧ガス保安協会 (公社)産業安全技術協会
 (一財)省エネルギーセンター (公社)全日本能率連盟 (一社)中部産業連盟 (一財)日本科学技術連盟
 (一社)日本化学工業協会 (一社)日本機械学会 (一社)日本機械工業連合会 (一財)日本規格協会
 (一社)日本産業機械工業会 (公社)日本生産性本部 (一社)日本設備管理学会 (一社)日本鉄鋼連盟
 (一社)日本トライボロジー学会 (一社)日本能率協会 日本メンテナンス工業会

JIPM 公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会
 Japan Institute of Plant Maintenance

※TPMは、日本およびその他の国における公益社団法人日本プラントメンテナンス協会の登録商標です。

Aセッション

開会あいさつ

10:00

IoT時代の設備ライフサイクル管理

IoT活用

高田 祥三 早稲田大学 創造理工学部 経営システム工学科 教授

設備の能力と寿命を活用し尽くすことで、設備の使用により生み出される価値を最大化するための設備ライフサイクル管理の考え方と、モニタリングデータを含めた様々なデータの活用方法を述べる。とくに、モニタリングデータに基づく予防保全実施基準の設定方法や更新の判断基準などについて、メカトロニクス機器を例にとり説明する。

10:05

IoTを活用したスマートメンテナンスの実現

IoT活用

小林 洋 日産自動車株式会社 車両生産技術本部 プラント・メンテナンスエンジニアリング部

故障による工場の生産ライン停止を防ぐため、これまで様々な診断技術開発を行ってきたが、その開発スピードや水平展開には多くの課題が有り展開が進まなかった。本発表では、その解決のキーとなる「汎用センサ」と弊社および学会の研究会で取り組んでいる「IoTを活用した診断技術開発と水平展開加速化」活動について紹介する。

11:05

11:15

労働人口減に対応した中小企業用「IoTツール」構築について

IoT活用

兼子 邦彦 小島プレス工業株式会社 総務部 参事

労働人口が大幅に減少しており、中小企業はその対応をしないと、大打撃を受けることになる。弊社は、平成28年度経済産業省「スマート工場実証事業」に採択され、中小企業用「IoTツール」を構築し、そこで明らかになった課題点および対応策について報告する。

12:15

13:15

ダントツ工場実現に向けた高効率ラインづくり(仮)

IoT活用

片山 敏 株式会社デンソー 西尾製作所 エアコン製造1部 製造技術室 TPM1課 課長

グローバルに勝ち抜く圧倒的な競争力を持つ「ダントツ工場」を早期達成のため、IoT活用による「質の高い情報」とそれを活用し「質の高い改善」を実行する人材づくりに取り組んでいる。「停らない設備」「不良を造らない工程」「人手に頼らない工程」の実現のための設備管理のノウハウと「質の高い改善」ができる人材を活かす設備稼働管理システムの活用事例としくみについて紹介する。

14:15

14:25

製造業におけるIoT (Internet of Things) 動向と事例紹介

IoT活用

高谷 幸宏 株式会社日立システムズ 研究開発本部研究開発センタ 主任研究員

IoTによりビジネス革新を実現するため、各社が積極的にIoTの導入を検討している。本発表では、IoTの市場や技術動向、IoTが生み出す価値やその導入ステップ、弊社の取り組みや導入事例について、製造業を中心に取り上げながら説明する。

15:25

15:35

16:35

Bセッション

開会あいさつ

設備保証度の向上

保全 マネジメント

羽場 和宏 サカティンクス株式会社 東京工場 生産技術本部 生産技術部 部長

弊社の計画保全活動では、パートIにおいては8本柱による基本的な活動にて、故障件数低減と保全費低減の成果をあげ、パートIIにおいてもRCM展開により成果をあげてきたが、「頭打ち」の状態に陥った。この状態を打破するために、新たな考え方、新たな指標として「設備保証度」を取り入れて、パートIIIでの成果に繋げることができた活動を紹介する。

製造現場の変化を踏まえたこれからの設備管理

次世代リスク マネジメント

中村 昌允 東京工業大学 環境・社会理工学院 イノベーション科学系・技術経営専門職学位課程 特任教授

製造現場では「人」「設備」「管理」が変化している。従業員の年齢分布は「二山構造」をしているが、5～10年後には製造現場から熟練技能者がいなくなり、今の若年層が主体となってプラントを動かすことになる。また、設備の老朽化が着実に進行し漏洩事故が増えている。これまでの安全は現場力に支えられてきたが、これからは設備・システムの設計と維持管理が極めて重要になり、リスクベースの設備管理と設備の改造・更新にあたっての的確なリスクアセスメントが求められる。

塩害との闘い ～心まで錆びてはいけない～

災害復旧と 設備管理・BCP

内海 義浩 ソニーストレージメディアマニュファクチャリング株式会社 ものづくり戦略室 KAIZEN Specialist

2011年3月11日14時46分 私たちにとって忘れもしない長い長い闘いの始まりの時でもあった。生まれて初めての体験と経験。工場内には流入物とともに、砂と泥と魚が残り、その光景は今も記憶から消える事はない。しかし、『お客様に製品を届けなくてはいけない』という思いから私たちは2日後には動き出した。『塩害と闘う』これは『自分達との闘い』でもあった。東日本大震災から6年半、設備と向かい合ってきた活動を紹介する。

省エネルギーへのエクセルギー活用法と適用事例

省エネ

武田 彰夫 株式会社MIC武田技術士事務所 代表者

企業の省エネルギーは、業種に関わらずエクセルギーの活用が効果的と考えている。これまでの手法では見えづかったエネルギーシステムの問題点を可視化することで、様々な改善策を検討できる。例えば、高性能ボイラーの効率は通常95%を超えるものが多いが、エクセルギーで見える化することにより、実績値が低いことがわかり、省エネ課題の抽出および改善を実現できる。今回はエクセルギーの活用方法や、その具体的な適用事例について紹介する。

ベーカリー厨房の冷凍機延命策と省エネ化

設備延命と 省エネ

鈴木 延明 株式会社レアールバスコベーカーイズ 東京購買部 設備担当 マネージャー

ベーカリー厨房機器の6割強を占める冷蔵庫、冷凍庫、ドゥコンディショナー・生地冷凍庫等は粉塵が熱交換器に詰まり5年で修理および交換が必要な状況だった。そこでコンデンサーを1回清掃し粉塵の進入を防ぐ、特殊な網を設置し、金属表面修復剤を冷凍機に注入することで冷凍機の延命と省エネを図ることができた事例を紹介する。

Aセッション

開会あいさつ

10:00

生産ライン統合管理システムの開発

IoT活用

岡田 一宣 株式会社ダイセル 播磨工場 生産技術本部 生産技術センター組立加工技術革新グループリーダー

弊社は自動車向けエアバック基幹部品を製造・販売している。自動車業界では近年のメガリコール問題より、品質管理強化が喫緊の課題となっている。弊社では㈱日立製作所と協業し、IoT技術を用いて作業員の逸脱動作やライン設備トラブルなどの予兆を検出することにより、品質改善や生産性向上を支援する先進的製造管理システムを開発した。同システムの概要と具体的活用事例を紹介する。

10:05

設備診断技術を応用した品質管理の取組み

設備診断 技術

辺見 隆 大日本印刷株式会社 技術開発センター 課長

設備の振動、温度、電流値といった設備診断に使用する測定値に加えて、各動作軸の動作速度、加減速値、ライン速度なども統合的に取扱うことで、設備故障以前に発生するチョコ停や品質不良について事前に対策を打つ取組みを紹介する。

11:05

11:15

工具診断から始める設備診断とIoT実現のためのデータ収集

IoT活用

伊藤 一夫 愛知機械工業株式会社 熱田工場 技術部

数年先の設備故障を予知するために必要なデータと診断方法を見極めるのは非常に困難である。そこで、加工設備において最短の周期である工具の診断を積み重ねることで、設備故障の予兆を早い段階で捉え、早期保全をする方法を提案する。また今できるIoTから将来のAI診断の展望を発表する。

12:15

13:15

電流情報量診断技術ならびにそのIoT・クラウドへの対応

IoT活用

劉 信芳 株式会社高田工業所 技術本部 診断サービス技術部 部長

IoT・クラウド時代のスマート工場に設置される回転機械の状態監視診断は従来より、ますます重要視されている。第四次産業革命の流れに従って、弊社は電流情報量診断技術を開発し、診断システムを商品化した。当システムはIoT・クラウドへ対応できる機能を持ち、導入実績を積んでいる。この新しい診断技術とIoT・クラウドへの適用仕組みを紹介する。

14:15

14:25

IoT/ICT技術を活用した加工組立・製薬工程への予兆保全の提案

IoT活用

石野 昌裕 富士フィルムエンジニアリング株式会社 本社 技術企画・開発事業部 課長

富士フィルムでは、これまで、設備への負荷が高く、保全費もかかり、停止故障が大きな損失につながる連続生産系の設備に対して、故障の未然防止を目指した予兆保全を展開してきた。今後は、IoT/ICT技術を活用し、加工組立・製薬工程の設備にも展開し、生産性の向上を図るべく、それらに必要な技術の提案をする。

15:25

15:35

16:35

Bセッション

開会あいさつ

訓練プラントを活用した保安力強化の取組み

人材育成

信賀 浩章 出光興産株式会社 製造技術部 技術研修センター 研修グループ グループリーダー

世代交代が進む中、現場の保安力を維持するために直長(保安係員)と代行を対象とした、夜間災害発生時の初期対応訓練、新人ボードマンを対象としたスタートアップ操作研修を弊社の研修の歴史と現在の環境変化への対応について紹介する。

お客様の喜びは私たちの喜び ～実感できる強い組織づくり～

保全 マネジメント

山村 和輝 トヨタ自動車株式会社 堤工場 部品製造部生産支援課 課長

生産活動で日々繰り返される故障。増加する保全管理項目をなんとかこなし、兆候管理や改善も生みの苦しみ。バラバラだった愛知県7工場の活動が一体感を持ってレベルアップを図り、うれしさを実感できるようになったのはなぜなのか? 「保全予備品ショップ軸」活動の活性化にスポットをあてながら、強い組織づくりの概要を紹介する。

故障予知とビッグデータ解析

ビッグデータ解析手法による製油所安定操業対策に関する検討

稲村 和浩 一般財団法人石油エネルギー技術センター 技術企画部 部長

製油所設備の稼働信頼性向上を目的として、IoTやビッグデータ解析技術による製油所の効率的な運用管理が脚光を浴びている。当センターでは、ビッグデータ解析技術を用いた配管腐食モデルを構築し、複数の製油所での適用について検討してきた。また機器の故障予知の可能性も調査してきた。これら検討状況を紹介します。

設備診断・補修技術

火力発電所ボイラおよび蒸気タービンの余寿命診断と補修技術について

西田 秀高 中国電力株式会社 エネルギー総合研究所 担当部長

火力発電所における蒸気配管の寿命評価法として「レーザー変位計測による最大損傷部位の解析」「高クロム鋼の余寿命診断」を補修技術として「帯鋼巻付による配管クリープ寿命延伸」「蒸気タービン鑄鋼材の溶接」を紹介する。

攻めの保全へ進化 OEE向上に俺たちが導く ～設備信頼性向上チームの挑戦～

戦略的な 保全

宮崎 健 ジヤトコ株式会社 工務部 保全技術課

従来の活動から「攻めの保全」へ進化し、設備総合効率向上活動のリーダーシップは私たちが取るという意識が変わった。保全を変え、製造ラインを変え、人を変えたことで短期間での設備総合効率向上に結び付いたチーム活動事例を紹介する。